

紫雄

第三十七号

若林先生から一言

OB、OGの皆様こんにちは。やはりゼミおよび私の近況をここでお知らせします。

一八期のNPO活動では和泉校舎周辺商店街との連携、地域活性化を図り、和泉校舎内で焼き芋屋、スイーツの出店を果たしました。昔はあった明大前商店街と明大生との関係を再び取り戻して、大学生と地域住民が交流を通してお互いを理解するというコンセプトからNPOに蓄積された会費・寄付金で運営をいたしております。学生にはビジネスの初歩、スタートを学習するよい機会となり、またいままでは素通りしていた明大前商店街の皆様との交流がとても楽しい日々となっております。○九年一月には一九期の学生を和泉にて迎えることとなりました。彼らにも引き続き、正義あるビジネスの基本を踏襲して二年次における実習を楽しんでもらいたいと心より願っております。また四年生でした一六期もほとんどが就活を終えて落ち着きを取り戻しました

が、これと入れ替わりに今度は三年生の髪が黒くまた短くなり、就職活動に入っていました。例年のことですが、落ち着いて学生と楽しむ時期は限定されており、これを大切にしていきたいと心から願っております。皆さん方が自宅に来たときに遊んでくれた私の娘も一八歳と一五歳になってしまいました。今年ダブル受験で、久々にMARCHクラス英文法基礎を娘に伝授しました。しかしながら昔の予備校のアルバイト時代に比べ腕が鈍っていることを痛感いたしました。今度皆さん方が自宅に遊びに来てくだされば、あれからずいぶん時間がたったと痛感されると思いますが、大学本部の仕事が大変になってきましたが、ぜひ時間を作って皆様方との交流を続けていきたいと思えます。



十七期ゼミ長挨拶

和田 出

僕たち十七期が若林ゼミに入室してから約二年間が経ちました。充実しているときの時間の流れというのは非常に早く感じるもので、やはりこの二年間も、あつ、と言う間に過ぎてしまったかのように思えます。今思い返せば、二年間のゼミ活動を通じて色々なことがありました。やり遂げたこと、諦めかけたこと、ぶつかりあったこと、喜びや悲しみ、様々な体験を僕たちは共有してきました。その中でお互いに切磋琢磨し、高めあい、分かち合うことで、目には見えない大切なものを育んできました。僕たちがこんなにも有意義なゼミ活動を行っている、その根本には若林先生の存在があり、また若林先生の御指導があるからこそ、僕たちは日々、成長出来ているのだと思えます。僕は一年前の紫雄に、「若林ゼミを選んだことが、僕の大学生活の中で最高のフラインプレイかもしれませんが、一年半後に大学を卒業する際、「若林ゼミを選んだことが、僕の大学生活の中で最高のフラインプレイでした」と胸を張って言えるよう、若林先生、先輩方の御指導の下、中心学年としての自覚を持ち、一七期の皆と一緒に若林ゼミをより良いゼミにしていきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。

十八期ゼミ長挨拶

小林 佳史

こんにちは、一八期ゼミ長の小林佳史です。若林ゼミに入りそろそろ一年が過ぎようとしています。思い返せばあつという間の一年でした。この一年で最も良かったことと言えば、若林先生や同期のみんな、温かい先輩方と出会えたことです。

僕たち一八期は、「明大前商店街との関わり」というテーマを掲げ、フリーペーパーの発行・和泉キャンパス内での商品代行販売などの実践的な活動を行っています。このような精力的な活動をさせてくれるゼミに入れて、今、すごく充実した日々を過ごしています。

このように実践的な活動を進めながらも楽しくやっていたのは、一八期全体がとても仲良くやっていたからでしょう。初めて本格的に知り合った春合宿からプロゼミのある金曜日の四限が待ち遠しくて仕方がありません。そして勿論、その仲の良さから時に暴走しがちな僕らを上手く抑えてくれる先生の力がなければ、僕たちの活動が形になることはなかったと思います。

一年間ゼミ長をやってみて、改めて先生の凄さ、マーケティングの難しさを実感しました。これか

らも僕ら一八期の仲の良さを活かし大きなものを作り上げていきたいです。

平成二十一年

若林ゼミ活動報告

二〇〇九年夏合宿

善本 麻衣

一七期は合宿中、以前から行っていた論文作成をし、先輩方から論文の途中経過を批判していただいた。今年は、日本酒班、LCC班、動物園班、路線バス班の四班に分かれて論文を作成した。一日目には、どの班も明け方まで論文作成に取り組み、方向性が見えてきた班もあったが、例年のようにテーマが変わる班もあった。二日目の夜には、八月の誕生日会を行い、盛り上がった。

一八期は一月に実施する代行販売のために、企画書やのぼりの作成を行い、出店する店「わかっちゃお」の宣伝ポスターを手掛けた。そのような活動や飲み会を通して、一八期はもとより一六期や一七期とも親交を深めた。



第十七期生

奨学論文

今年若林ゼミ十七期では、十月一日(木)の提出

日にむけて奨学論文を作成しました。
私たち十九人は、路線バス班、○○班、動物園班、
日本酒班の4つに分かれて、それぞれ頑張りまし
た。みんなお疲れ様☆

路線バス班

久保田 孝志

小林 将哉

福村 直

高橋 大喜

緒方 千尋

今日の深夜における交通機関の現状はあま
り盛んではない。深夜の交通手段の主流となっ
ているのはタクシーであるが、そのタクシーに
おいても現在、超過運転や道路運送上の違反、
駐車による交通の妨げといった問題が指摘さ
れている。その現状を変えるためにも、タクシ
ーではなく、公共の機関が深夜の交通もカバ
すべきであるという観点から、国民の移動手段
の大部分を占めている鉄道機関や路線バスに
おける終夜運転の可能性について考察してい
く。そこで、まず鉄道における終夜運転につ
いて考察していき、その中で障害としてあがっ

くる地域住民への騒音や夜間の鉄道のメンテ
ナンスなどの問題をバスでは克服できるので
はないかという考えから路線バスの終夜運転
について提案していき、そのことよって起き
る二酸化炭素の削減や渋滞の緩和、安全面の向
上による終夜運転の需要の拡大などの経済効
果について考察していく。

LCC(新規格安航空会社)班

和田 出

河原畑 裕太

野村 拓也

金山 茜

稲塚 祐子

日本の若者における海外旅行者数がここ数
年減少している。もちろんこれには、9.11テロ
による航空機利用の不安感の増大、ここ数年の
不況、燃料の高騰、新型インフルエンザによる
海外旅行の自粛などの影響は少なくない。しか
し、日本全体の出国者数を見てみるとわずかな
減少でしかないため、若者の出国者数の減少は
単純な不況だけによる結果ではないと言える。
そこには若者ゆえ経済的制限があるためサー

チャージ料値上がりによる旅行費増大の敬遠、
海外旅行の魅力低下など様々な原因が考えら
れる。一方、日本を含め世界の航空業界は、経
営難・経営破綻に追い込まれる航空会社も数多
く大変厳しい状況を迎えている。経営難による
不採算路線の撤退は止むを得ず、この現在の航
空業界の流れはさらなる若者の旅行離れを助
長しかねない。

この状況を受けて、大手航空会社が撤退を進
め決して有効活用されているとは言えない二
次空港を利用し、旅行費の価格に敏感と言える
若者のための新しい格安航空会社を提案する。
この新規格安航空会社を、欧米・ヨーロッパで
近年大きな躍進を見せているLCC(新規格安航
空会社)のモデルに倣い、検討する。
第一章では欧米におけるLCCの登場と発展の
背景を紹介する。第二章ではLCCの成功モデ
ルとして、アジアで業績を伸ばしている格安航
空会社のエアアジアの成功要因を分析する。第
三章では日本の航空業界の現状と、スカイマー
クやAIRDOなどの1990年代後半以降に設立
された新規航空会社の失敗要因の分析を行う。
第四章では、来年開港予定の茨城空港を拠点空
港に設定し、実際にシミュレーションを行い、
二次空港の活用も含めた新規格安航空会社の
提案へと論を展開させていく。そしてシミュレ

ーションで得られた航空券の販売価格など具体的な数字を挙げ、学生にアンケートを取り実際の若者の反応を調査し、現実的に妥当であるか検討する。

動物園班

元 進之介

徳永 美理

加瀬 健吾

越智 達之

近年、上野動物園の入園者数減少、人気低迷がメディアで取り上げられている。

実際に上野動物園の入園者数は減少傾向にある。これは全国の動物園にも言えることである。

しかし上野動物園園長小宮園長へのインタビューによりメディアで伝えられている情報と実情の差を知ることができた。上野動物園は1940年代から過度な人気により施設内の過密化が進んだ。これにより本来の動物園としての機能を果たせなくなった。そのため新施設の設立などにより入園者数を分散し減らしていったのだという。しかしメディアでは全くと言っていいほどのことには触れられていない。ここでまずメディア

アの在り方について考え直さなければならない。また上野動物園自体にもまだまだ改善点はあるように我々は感じた。

これらのことを踏まえ我々は新しい提案をしたいと思う。まずメディアの在り方についてメディアは本来迅速に事実を伝えるべきものである。もう一度原点に立ち返り本来の性質を取り戻す必要がある。また動物園サイドも今まで以上に積極的に情報発信していくべきだと考える。そして我々情報の受け取り手も簡単に情報を鵜呑みにせず正しい情報を見極める力を養っていかねればならない。

これらのことを実践していけば上野動物園は、新たな発展を遂げることができるであろう。

日本酒班

北野 信行

永田 和樹

荻原 弘幸

善本 麻衣

谷 真由美

私たち日本酒班は、日本酒の海外進出をテーマに設定した。第一章では『若者の日本酒離れ』を主題に置き、時代・年代ごとの国内の酒の消費量、また酒類のシェアを比較し、国内で飲まれている

に酒を把握する。まず、若者の日本酒離れの原因の根底には団欒で食事する時間の喪失が進んだからではないかと私たちは考えた。これを裏付けるようにアンケートでは、正月など団欒の機会があるときは日本酒を飲むという回答が半数近くのぼった。また、年代別の酒の消費量には、各年代の酒に対する意識の違いなどが関係していることがわかった。

第二章では、海外における日本酒の現状というテーマで大きく若手海外での日本酒のシェア、各国の酒税について述べている。海外での日本食ブームと相まって、日本酒の輸出量も増加する傾向がある。日本酒が輸出されている主な国々、そしてその量、今後の広まりについてまずまとめた。また輸出する際には、各国での定められた酒税が課せられる。これは日本酒の海外普及にとってネックとなるため、その特徴や問題点を次にまとめた。第三章では、2009年8月に行った小西酒造でのインタビューについて述べている。4節では、小西酒造の歴史・紹介、似説からインタビュー内容に入り、小西酒造のオーストラリア進出について、三節ではオーストラリア以外での進出について、4節では小西酒造の製品であるTsunami. に対して、5節では日本での日本酒における問題についてまとめられている。

第四章では、上記のことを踏まえて結論付けて

いる。

第十八期生

活動報告

代行販売

稲場 夕佳

私たちは、明大前商店街と明大生の結びつきが疎遠になっているという状況を解消するために明大前商店街と明治大学和泉校舎の学生たちを結びつけ、商店街を活性化する活動を行っています。まず、学生が何を求めているのかを明確にするために明大生一四七人にアンケートを実施し、その結果学食近辺の混雑を逃れるためにキャンパス内の別の場所にランチ系統もしくはスイーツ系統屋台を求めていることがわかりました。そこで「わかっちゃんのお店」第一弾として商店街にあるCoCo壱番屋や、五十嵐さんという方が販売しているシュークリームや焼き芋の代行販売を実施しようと考えています。販売期間は一月十六日から十二月四日を予定しています。



フリーペーパー

由井 樹

私たち若林ゼミ一八期は、「わかっちゃん」というフリーペーパーの作成・発行を行いました。「わかっちゃん」は、「明大生に明大前のことをもっと知ってもらいたい」というコンセプトの元、明大前商店街にあるたくさんの魅力的なお店を特集し、明大生に紹介していこうというものです。記念すべき第一号では、鉄板焼き居酒屋「いぶし銀明大前店」と、日本有数のカレーチェーン店「CoCo 壱番屋明大前店」を特集しました。最初にこの二つの店を取り上げたのは、どちらも安価

で美味しいものが食べられるという大変魅力的な店であるにもかかわらず、立地的に明大生に広く浸透していないのではないかと思われたからです。フリーペーパー内には、いぶし銀で「明大生」であることを告げればドリンク一杯が無料になるということの告知や、CoCo 壱番屋のお得な限定メニューなどの紹介も行っています。

一〇月二一日の昼休みに、和泉キャンパス内で「わかっちゃんお第一号」を配布しましたが、時間内に完了。明大生が、明大前での新たな楽しみを発見することに一役買ったことと思います。

今後わかっちゃんおは継続的に発行し、まだまだ明大前で眠っている魅力を発掘していきますので、ご期待ください。フリーペーパーの一部が次ページのものになります。

食べて、飲んで、
そしてシメまでココ1軒!

お好み焼, もんじゃ焼, 鉄板焼の店



いぶし銀 明大前店

営業時間 ランチ 11:30~14:00 デイナー17:30~24:00



いぶし銀本店である祐天寺店はなんと、各種メディアで取り上げられている人気店。そんないぶし銀が最近明大前にもオープンしたんです!

みなさんご存知でしたか!?



ランチは駿河湾産黒はんぺん定食500円(限定10食)
いぶし銀風お好み焼定食780円などリーズナブル



↑駿河湾産黒はんぺん定食¥500

こだわりは静岡産!



店長さんオススメは、静岡県駿河湾直送の生桜えびを使ったメニュー。
生桜えび玉940円が王様のランチで以前紹介されました!

明大生限定お得情報

今なら、「明大生です!」と言えば...

ランチ→ごはん・味噌汁おかわり自由

+静岡茶・ジャスミン茶・ウーロン茶の中から1杯サービス

ディナー→ワンドリンクサービス☆

(11月末まで)

もう明大生なら、

